

手稻の夜空 希望の大輪

札幌 マチの元気願い千発

札幌市手稻区の住民有志が20日夜、手稻山から花火約千発を打ち上げた。新型コロナウイルスの影響で地域の夏祭りなどが中止となり、寂しがっている子どもたちを元気づけようと企画した。

(49)は「手稻の団体、企業の皆さんのおかげ。少しでもマチが元気になってほしい」と話した。
(伊藤駿)

手稻区の住民を元気づけようと手稻山から打ち上げられた花火(浜本道夫撮影)

怖い？面白い？ 「妖怪の世界」

絵画や立体造形展示

妖怪をテーマにした絵画や立体造形を集めた「第7回北の妖怪展」が、札幌市

札幌市手稻区の住民でつくる実行委が「ステイホームライトダウン」と題して実施。密集を避けるため、事前の告知は控えた。

同日午後7時から約10分間、サッポロティネスキーフィールドの聖火台付近から花火を打ち上げ、医療従事者を励ます青色やスター・マインなどの大輪が夜空を彩った。約2カ月前から準備した実行委員長の千葉雅可さん

中央区のアートスペース201（南2西1）で開かれ



ている。道内外のプロやアマチュア作家33人の約60点が並ぶ。

2014年から毎年開かれている。水彩画や樹脂粘土で、豆腐小僧やかつばなどの妖怪の怖さやユニークさを表現。コロナ禍で注目された「アマビエ」のほか、

中国に伝わる神獸「白沢」をモチーフにした作品も展示されている。

同僚2人と訪れた手稻区の会社員、佐藤功さん(66)は「現実と違う世界を楽しめて童心に帰った気分だ」と話した。入場無料で、22日まで。午前10時～午後6時50分(最終日は5時まで)。

(伊藤駿)

さ、高
す
ぐ
に
相
談
を!
緊
急
口
119)
康
018
相談
後9時



©北海道新聞社